

6. 事業内容	事業目標： 1. 高等専門学校生がHIV/AIDSに関する知識を身につけ、予防意識を高め、感染予防のための行動を取る（安全な性行動、コンドームの使用、HIV抗体検査の受診等）。 2. ピアエデュケーターと高等専門学校の職員がピアエデュケーター育成とピア教育の手法を身につける。 * ピア教育とは同世代間で知識・スキル・行動を共有する教育のことであり、それを行う同世代のリーダーをピアエデュケーターと呼ぶ。 上記の事業目標を達成するため、第3期は第1、2期とは異なる新たな6つの高等専門学校を対象に以下の活動を行う予定である。当団体は県内の高等専門学校でHIV/AIDS予防教育を実施する唯一の団体であり、事業を実施する意義は大きいと考える。 活動： ① 高等専門学校職員への事業説明会 ② 高等専門学校職員・高等専門学校生代表・チェンマイ県保健局職員・感染症対策室職員への合同事業説明会 ③ 高等専門学校生ピアエデュケーター育成研修（計 110 名を育成） ④ 高等専門学校の職員を対象にしたピア教育のカリキュラムや教材作成のための会議 ⑤ 学校内ネットワーク月例会議と研修後のフォローアップ ⑥ ピア教育プログラム企画・メディア開発の発表会：高等専門学校生ピアエデュケーターが独自のアイデアで企画したピア教育プログラムや使用するメディアを開発して発表・共有する。これらのピア教育プログラムや教材・メディアは、3 年分をまとめて各学校や行政機関と共有する。 ⑦ ピア教育活動：高等専門学校生ピアエデュケーターによるピア教育活動実施。年間 18 回のピア教育活動（計 1,440 名対象、各校 3 回ずつ）と 6 回の特別キャンペーン（計 780 名対象、各校 1 回ずつ）を行う。また、世界エイズデー等年間 6 回移動検診車（中型バス）を用い HIV 抗体検査を実施する（計 120 名対象、各校 1 回ずつ）。 ⑧ 各学校に「ピア教育ルーム」を開設：高等専門学校生ピアエデュケーターが活動を企画したり、悩みを抱えた高等専門学校生が相談に訪れるための場所の提供（6 つの高等専門学校に開設）。 ⑨ ピア教育経験を積んだ高等専門学校生ピアエデュケーターによる後輩ピアエデュケーター育成研修：高等専門学校生ピアエデュケーターが次年度に活動する後輩ピアエデュケーターを育成する。これにより毎年新しいピアエデュケーターが育成されることを期待する。（計 110 名育成） ⑩ 中間会議、最終会議 ⑪ ベースライン調査、年度終了時調査：結果をまとめ、各学校や行政機関と共有する。 参考資料②各活動の詳細説明、参考資料③受益者数
---------	--

7. これまでの成果、課題・問題点、対応策など	① これまでの事業における成果（実施した事業内容とその具体的成果） 中間報告の 2014 年 12 月末時点で、第 2 期の支援対象である 6 つの高等専門学校から計 120 名のピアエドゥケーターが育成され（年間目標の 50%）、計 974 名がピア教育に（年間目標の 56%）、1,050 名が特別キャンペーンに（年間目標の 105%）、計 115 名が HIV 抗体検査に（年間目標の 115%）参加し全員が陰性であった。中間報告時まで、申請書に記載した 6 つの成果指標の達成度を以下に記す。 【指標 1】ピア教育に参加した高等専門学校生の予防意識チェックリスト・HIV に関する知識テスト結果（目標：70 点以上）、【指標 2】直近の性交渉において HIV 感染を予防するための行動をとる割合（目標：15%増加）、【指標 3】HIV 抗体検査を受診したと答える割合（目標：10%増加）については、事業終了時に調査を行うため現状ではデータがないが、ピア教育受講直後の知識テスト結果の上昇や参加者からの前向きなコメントから、事業終了時には目標を達成できると考える。 【指標 4】ピアエドゥケーター育成研修後に実施した知識テストでは、90 点以上を獲得した学生が 56%と目標の 90%に未達であった。リーダーシップ能力とライフスキルのチェックリストでは、他者評価・自己評価共に 70 点以上を獲得した学生が 98%と目標の 100%にわずかながら未達であった。今後学校職員や当団体が適切にフォローしていく。また、ピア教育の企画・実施能力（目標：最終ピア教育が 100%学生のみで自立して実施され、100%の学生が次年度のチェンマイ県保健局に対する予算申請書を作成する）については事業終了時に調査を行うため現状ではデータがないが、1 回目より 2 回目のピア教育の方が、ピアエドゥケーターが自立して活動を行っている様子から、事業終了時には達成できる見込みである。 【指標 5】学校職員はピア教育や特別活動に 100%参加しており（目標：70%以上）、ピア教育手法の知識と実施支援スキルを身につけている。 【指標 6】ピアエドゥケーター全員が関係機関のコンタクトリストを所持しており、各学校の職員も全てのネットワーク会議に出席している（目標：100%）等、学生間と関係者間とのネットワークが構築されてきている。 第 2 期の学校職員の多くが、第 1 期の対象校の職員から本事業の評判を聞いており、積極的に本事業に参加している。また、第 1 期と第 2 期のピアエドゥケーターも積極的に交流し、特別キャンペーン時に協力し合う等ネットワークの輪は広まっている。更には、第 2 期のピアエドゥケーターの中には、男性と性交渉を持つ男性 (MSM) が多くおり、HIV 感染のリスクが高い層へのピア教育も効果的に実施できている。 本事業によるピア教育のシステムは、チェンマイ県内の高等専門学校に着実に根づきつつあり、本事業終了後もタイ側関係者による自発的な活動継続が見込まれる。 ② これまでの事業を通じた課題・問題点 本事業実施に関して大きな問題はなく、予定通り進捗している。チェンマイ県保健局や各高等専門学校との協力関係は良好であり、本事業の必要性が高く評価されている。以下に、中間会議で指摘された課題や運営上の問題点を
--------------------------------	--

	述べる。 1) 知識テストで 90 点以上を獲得したピアエドゥケーターが 56%にとどまり、目標の 90%には未達である（指標 4）。 2) 6 校のうち 2 校は山岳民族の子弟が多く通っている学校であり、女子の外出が制限されているため、ピアエドゥケーターの多くが男子となった。彼らは性について人前で話すことを恥ずかしがる傾向が強い。 3) キャンパスが 2 つに分かれている 1 校では、ピアエドゥケーター 20 名を育成しても実際には 10 人ずつで活動することになってしまい、チームとしての自信を確立することが難しい。 ③ 上記②に対する今後の対応策（第二期後半以降） 1) 事業終了時に再実施するテストで、9 割のピアエドゥケーターが 90 点以上を獲得できるように知識の強化を目指す。山岳民族出身であり母語でないタイ語での講義内容を理解するのが難しかったピアエドゥケーターもいたため、今後はより丁寧な伝え方を心がける（指標 4）。 2) 学校職員や当団体職員がピアエドゥケーターと定期的に会議を実施する中で、性について話すことへのハードルを下げ、少しずつ自信を持ってピア教育を実施できるように促す。 3) 各キャンパスで更に 25 人ずつの後輩ピアエドゥケーターを育成し、今後のピア教育に参加してもらうこととする。
8. 期待される成果と成果を測る指標	【指標 1】ピア教育に参加した高等専門学校生の予防意識チェックリスト・HIV に関する知識テストの結果が少なくとも 70 点以上になる。 指標 1 を達成した状態とは、学生が HIV/AIDS の正しい知識を身に付け、予防行動を取るための意識が高まっている状態を指す。 【指標 2】ピア教育に参加した高等専門学校生のうち、直近の性交渉において HIV 感染を予防するための行動（安全な性交渉のための話し合いをする・コンドーム使用等）をとる割合が事業実施前より 15%増える。 指標 2 を達成した状態とは、学生が安全な性交渉を十分に理解し、実際の行動に反映させている状態を指す。 【指標 3】ピア教育に参加した高等専門学校生のうち、HIV 抗体検査を受診したと答える人の割合が事業実施前より 10%増える。 HIV 感染予防には、HIV 感染者自身が感染の有無を把握していることが重要である。指標 3 を達成した状態とは、学生自らが感染リスクのある行動を取っていることを自覚し、検査を受けることによって HIV 感染の有無を把握している状態を指す。もし陽性であることが分かれば、適切な医療機関へ紹介されて治療を受けられる。 【指標 4】高等専門学校生ピアエドゥケーターの HIV/STI 知識テスト（目標

	値：9 割の学生が 90 点以上)、リーダーシップ能力とライフスキルのチェックリスト結果（目標値：70 点以上）が事業開始前より向上し、ピア教育を企画・実施できる（目標値：最終ピア教育が 100% 学生のみで自立して実施し、かつ 100% の学校のピアエドゥケーターが次年度のチェンマイ県保健局に対する予算申請書を作成する。） 指標 4 を達成した状態とは、ピアエドゥケーターが、他の学生に正しく HIV の知識と予防行動を伝えられるようになっている状態を指す。また、本事業終了後も、県保健局や学校の予算により活動が継続できる見通しが立っていることも含む。 【指標 5】 高等専門学校職員が 70% 以上の活動に参加し、ピア教育手法の知識と実施支援スキルを身につける。 指標 5 を達成した状態とは、学校職員がピア教育手法を身に着け、今後とも自発的にピアエドゥケーターを支援できる状態を指す。 【指標 6】 学生の感染予防行動をサポートする学生間と関係者間とのネットワークが構築され、高等専門学校の担当職員が一校につき一人、すべてのネットワーク会議に参加する。 指標 6 を達成した状態とは、学生、学校職員、チェンマイ県保健局や感染症対策室職員らのネットワークが構築され、いつでも学生が相談できる体制が整っている状態を指す。
--	--